

平成 24 年度公益社団法人第 6 回理事会議事録

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 24 年 12 月 26 日 (水)  
午後 1 時 00 分から午後 5 時 45 分
2. 開始場所 東京大学理学部 1 号館 839 号室  
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名  
出席理事 15 名 (定足数 11 名 会議成立)  
出席監事 2 名  
オブザーバー 7 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員  
理事 津田 敏隆  
理事 川幡 穂高  
理事 木村 学  
理事 中村 正人 (TV会議)  
理事 小口 高  
理事 ウォリス サイモン  
理事 奥村 晃史  
理事 古村 孝志  
理事 佐藤 薫  
理事 杉田 倫明 (TV会議)  
理事 竹村 恵二 (TV会議)  
理事 成瀬 元  
理事 西 弘嗣  
理事 畠山 正恒  
理事 浜野 洋三  
監事 鈴木 善和  
監事 松浦 充宏

## 6. 出席オブザーバー

固体地球科学セクションプレジデント	大谷 栄治	(TV会議)
宇宙惑星科学セクションプレジデント	大村 善治	
地球人間圏科学セクションプレジデント	氷見山幸夫	
地球生命科学セクション幹事	高野 淑識	(スカイプ)
大気水圏科学セクション幹事	川合 義美	
男女共同参画委員会委員長	小口 千明	
大会運営委員会副委員長	岩上 直幹	

午後1時00分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、開会を宣言した。

## 7. 報告事項

### (1) 2013年大会準備報告（浜野理事）資料P1-5

浜野理事より2013年大会のセッションが12月21日にウェブ公開された旨、報告があった。セッション数は181、内国際セッションは42で昨年度より微増となった。

投稿、参加登録開始は1月10日（木）で1月号メールニュース発信の日なので、メールニュースで投稿を促すことが確認された。

### (2) 義捐金関連報告（畠山理事）資料P6-8

畠山理事より2011年大会で募った東日本大震災の義捐金1,938,525円の支援状況が報告された。12月20日で物品、現金での支援が終了し、残高が0になったことが確認された。

### (3) ジャーナル関連報告（川幡理事）資料P9-22

川幡理事より2012年11月以降の経過について報告があった。

11月13日に日本学術振興会に計画調書を直接提出した。サイエンス・セクション・プレジデントおよびバイスプレジデントへも文書で報告した。

書類上の現状での第一段階編集委員は海外11名、日本人11名となっているが、現時点では、海外19名まで増えており、最終的には25名以上を予定している。分野のバランスなどとともに海外・国内の編集委員についてサイエンス・セクション・プレジデントの方々と相談したいという希望が伝えられた。

AGU執行部との会合が12月6日にSan Francisco, Moscone Center North Rm. 123で行われた。JpGUのジャーナル計画について川幡理事が紹介し、AGUの執行部はopen accessの仕組みや価格設定などについて関心を示した。特にJpGUのジャーナルについて、値段がかなり低いことに少し驚いた様子であったので、JSPSによる補助が最初期待できるが最終的には一人立ちしなければならないことを説明した。AGUのジャーナルの出版事業をWiley-Blackwellに委託することを決定したという報告を受けた。ただし、著作権はAGUにある（競争入札にしたが、入札条件の一つとして挙げた）。Wiley-Blackwellのon-line

技術を利用して原稿内のcross referenceなど簡単に手に入れることができること、世界的な販売があることなどの利点がある。

今後の予定として①出版会社との契約の事務手続き②出版会社の選定③海外編集委員の追加④運営・編集委員会の開催が挙げられる。

連合大会でU-04「オープンアクセス電子ジャーナルと学術出版の将来」（すべて招待講演のみ）をユニオンセッションで提案した。趣旨は、「日本地球惑星科学連合ではオープンアクセス電子ジャーナルの2014年の刊行を目指して準備中である。本件は、「国際情報発信強化」といった日本の科学会全体が直面している課題を背景としている。本セッションでは、オープンアクセス電子ジャーナルの概念、ビジネスモデル、学術出版の将来、地球科学研究に与える影響について、他分野の招待講演者も含めて幅広く情報交換するとともに議論を行う。」であり、1.5コマ位を予定している。

#### (4)委員会報告

- ・総務委員会（古村理事）資料 P23

古村理事より平成 24 年度にこれまで連合が共催・協賛・後援したシンポジウム等とサポートレターに関して報告があった。

- ・財務委員会（西理事）資料 P24-29

西理事より平成 24 年度 11 月現在の財務報告があり、7700 万円の予算で実質余剰は 300 万円と予想範囲内であったことが報告された。セクション予算は 1 月 15 日が締切であり、単年度予算なので繰り越しはないことが説明された。

- ・男女共同参画委員会（小口千明男女共同参画委員会委員長）資料 P30-35

小口千明男女共同参画委員長より 2012 年度の委員会のスケジュール、連絡会シンポジウムでのポスター発表の報告、2012 年連合大会でのパブリックセッションの提案について説明があった。イクメンセッションのテクニカルな問題に関しては事務局と相談していくことになった。

- ・地学・地理オリンピック（畠山理事）

瀧上理事に代わり、畠山理事より地学、地理オリンピックの状況について説明があった。

#### (5)その他

- ・日本学術会議関連 大型研究アンケート実施（津田理事）

日本学術会議 地球惑星科学委員会永原委員長に代わり、津田理事より「学術の大型研究計画マスタープラン」策定に先立つ予備調査のアンケートに 25 件の回答があったことが報告された。連合のHPのトップのNEWSの「学術の大型研究計画に関する予備調査の結果について」に公開されているのでよりよい立案の参考にしてもらいたいとの説明があった。

#### 8. 審議事項

第 1 号議案 会員（正会員）入会承認の件（古村理事）資料 P36-37

前回理事会以降に入会を申し込んだ正会員 29 名の入会が承認された。

第2号議案 平成24年事業報告書および平成25年度事業計画作成について（古村理事）

資料P38-61

1月15日の財務委員会への予算書の提出と、3月末の理事会での事業計画書の作成に向け、平成24年度事業計画書に基づく平成24年度事業報告書および、平成25年度の事業計画書の作成依頼があった。事業報告・事業計画書は一旦事務局がとりまとめ、総務委員会の確認の後に理事会に提出することが確認された。

第3号議案 国内・外国旅費規則の承認について（古村理事）P62-64

旅費規則の制定について前回理事会に引き続き審議を行った。審議の結果、宿泊費の上限額については、国内、海外ともに東大の職員旅費規程や国家公務員の旅費規定を基本とすること、海外運賃は「航空運賃は割引エコノミーを基本とする。」ことの2点を修正し、その他、細かな字句の修正は総務委員会一任により規則が承認された。西財務委員長より旅費の請求に際して領収書添付が原則であることも確認された。

第4号議案 謝金規則の承認について（古村理事）資料P65

審議の結果、字句の修正を経て「公益社団法人日本地球惑星科学連合講演等謝金規則」が承認された

第5号議案 各委員会の委員長・委員の専任に関する申し合わせ案について（古村理事）資料P66-71

古村理事より、各種委員会の委員長及び委員の選定手順と時期を定める申し合わせの制定に対して提案があった。委員長は原則として理事が担当すること、委員をセクションから選出する場合は、理事会が依頼すること、委員会の継承性を配慮しながらも委員の流動性を高めることについて確認された。新理事会発足後の委員の選出時期や委員の任期については、委員会規則との整合性等を考慮して引き続き検討することとした。

15:15 一時休会 15:30 再開

第6号議案 2013年大会企画方針の検討（浜野理事）資料P72-93

2013年大会はパブリックセッション5、ユニオンセッション7（内、国際セッションが2）と決定された。パブリックセッションの中のジオパークから2013年度は規模が大きくなった為に大きな部屋を使いたいとの要請がきているので、現在201Aと201Bを合体させるか、アパホテルで一部屋借りるか検討中である。又、イクメンセッションの開催と、ユニオンセッションの中のNASA関連のセッションも新設された。NASAセッションは4コマ必要となり、国際会議室を1日使用することになる。又、ランチタイムのスペシャルレクチャーもこの日はNASA関連のものになる。ユニオンセッションの中では、学術会議が2.5コマ、ジャーナルを1.5コマ程度にする予定である。

受付業務を円滑に行う為、2013年大会では、初日はアルバイトとパソコンを増やし対応する、初日の1コマ目は通常セッションは入れない、という方針であることが報告された。

展示関係では書籍ブースが 3 万円から 5 万円に値上げされる。懇親会は中止とし、幕張メッセ発着の観光ツアーを企画することが承認された。又、セレモニー的な懇親会の必要性も議論され、レセプションやアイスブレイカーのような企画も今後検討していくことになった。公演中の撮影については原則禁止であることが確認された。プログラムは基本情報部分を日・英併せた冊子にし、毎日分は新聞形式とする。ポスター発表の「いいね」カードは本年度も実施する。スマートフォン用のアプリケーションの見積もりも提示された。

第 7 号議案 2014 年大会開催方針の件（会費・参加費等値上げ検討 WG 立上）（浜野理事）

資料 P94-112

2014 年以降に関しては、現在幕張メッセの国際会議場はすでに一杯であり、参加者増加を目指すならば会場を広げるしかない状況である。その為、以下の案が提案された。

- 1) 幕張メッセの国際会議場と展示場の半分を使用（国際会議場：5 日／展示場：3 日）
- 2) 幕張メッセの国際会議場と APA ホテルの 2 階の宴会場を使用  
(国際会議場：5 日／APA 宴会場：3 日)
- 3) 国際フォーラムのガラス棟を使用
- 4) 2015 年度以降パシフィコ横浜を使用することとし、2014 年度は幕張メッセで開催する
- 5) 新宿の京王プラザホテルを使用

これらを基に議論がなされ、値上げWGを立ち上げ、値上げの件も併せ以下の案をベースに早期に方針を決定することが確認された。

- 1) 今まで通り幕張メッセ国際会議場で 6 日間開催
- 2) 6 日から 5 日に会期を短縮し、APA ホテルの宴会場か幕張メッセの展示場を使い開催
- 3) 2014 年は何も変えず、2015 年にパシフィコ横浜を借りて開催する

ワーキンググループは津田理事、中村理事、渡邊理事、成瀬理事、古村理事、浜野理事、北理事、西理事、浜野理事、岩上大会運営委員会副委員長、川幡理事 で構成され、2 月を目途に結論を出す予定である。

第 8 号議案 国際関係対応方針の件（ウォリス理事）資料 P113-114

AOGS2014 年札幌大会に関して、AOGS は JpGU に共催を求めてきている。連合を国際化していく為には AOGS と JpGU のパートナーシップは大切である。JpGU の今後のあり方をサイエンスと社会貢献という両面を大切にす観点から国際学術委員会、会長、副会長で検討していくことになった。

第 9 号議案 連合からの声明発信の件（ラクイア地震など）ウォリス理事

ラクイア地震に関する声明を連合として発信したことに基づき、今後連合として発信する声明について、ルール作りが急務だということが確認された。システムを作る為に、ウォリス理事が AGU がどのような方法を取っているのか問い合わせ、調査することになった。

第 10 号議案 連合事務局体制見直しの件（調査レポート）（中村理事）資料 P115-128

プロビティコンサルティングに依頼した結果、事務局の仕事量が年額 340 万円程度アップしている為、アルバイトではなく正社員を公募し 2013 年 4 月以降雇用していくことが満

場一致で認められた。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 5 時 45 分)  
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席議事は次に記名・  
押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 24 年 12 月 26 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 6 回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	佐藤	薫	印
出席理事	杉田	倫明	印
出席理事	竹村	恵二	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	畠山	正恒	印

出席理事

浜野

洋三

印